

新型コロナウイルスに影響を受けた 私たちの働きと、今後の見通しについて

事業部副部長
三木勝利・神谷葉子・大野原ひとみ

新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない、2年前から私たちの生活や働き方が大きく変化しました。私たち職員も得体の知れないモノに対する不安や焦りの感情を抱えて、今日まで課題整理を行うこととなりました。

感染症の蔓延が始まるころは、ご利用者や職員の日常生活で過剰に行動制限をするなど、ピリついた雰囲気も漂っていました。その中でも、地域の関係機関と情報交換を密に取り、フェーズ別に対応できるように整理したり、職員人数が限られる中で業務を見直したり、安全に業務や訪問ができるための標準感染予防策の徹底など、普段何気なく行っていたことを根拠立てて考える力を高めることができました。

また、新しい取り組みとしては分離ワーク（場所とチームを分けての働き）や、新型コロナ関連の情報交換のための会議開催、ICTを活用できる環境を整備して、オンラインでの面談や実習の受け入れを行いました。

ご家族様の「病院に行ったら死に目に会えない」という言葉がきっかけで、最期まで家族と一緒に寄り添える方法を模索しながら、看取りの対応も積極的に挑戦することができました。

成人を迎えたお孫さんとガラス越しに涙を流しながら面会する入居者の方の姿が忘れられません。面会が中止となり、外出自粛のため体力や心の健康を損ない、「日常」が失われていく様子を傍らで感じました。新型コロナウイルスとの付き合い方がわかってきた今、「日常」のために何ができるのかを工夫し考え続けていきたいと思っています。

当初は法人内でうまく伝達や連携することが難しいこともありましたが、コミュニケーションを密に取ることで全体を見るように意識し、様々な気づきから足並みをそろえた運営が少しずつできるようになりました。想定外のことが起こる場面に出会ったとき、私たち自身に何ができるのかを考え、今後も根拠を持って発信できる組織づくりを目指していきます。

後援会ご献金感謝報告

2022年3月26日から2022年6月26日までの献金総合計は、2,453,000円ございました。多額のご献金に感謝申し上げます。

今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



社会福祉法人

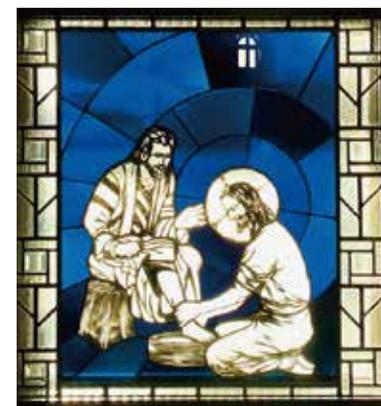
るうてるホーム 法人報

聖書の教えに従って
お客様を敬い、
お仕える

洗足のキリスト像

新約聖書には「ディアコニア」というギリシャ語が32回出てきます。「仕えること」「奉仕」「世話」「給仕」「もてなし」と訳されます。「ディア」は「通って」、「コニア」は「ホコリ」を表しますから原意は「ホコリまみれになって」となります。

るうてるホームの玄関ホールには「洗足のキリスト像」の切り絵とスタンドグラスがあります。キリスト教の歴史の中でスタンドグラスは「眼で見る説教」とされてきました。2013年、現在地に新しい建物ができる時に合わせて依頼し製作されました。原画は小嶋三義牧師による切り絵、スタンドグラスは山崎種之氏（ルーテル松本教会員）の作品です。



「洗足のキリスト像」のスタンドグラス

この洗足のキリスト像はヨハネ福音書13章に記された出来事に由来しています。そこには主が弟子たちの足を洗う場面が描かれています。主は言われました。「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである」（同13:15）。主ご自身がディアコニアの模範を示してくださいました。「足」は私たちの身体の中で一番ホコリまみれになる部分です。キリストご自身が、弟子たち一人ひとりの前にかがみ、たらいにくんだ水でその足を清め、手ぬぐいで拭ってキレイにしてくださいました。何と有り難いことでしょうか。私はそこから、目の前の人に弟子入りするつもりで心をこめて向かい合うことを教えられています。キリストのディアコニアの心を模範とする生き方です。

相手のニーズをどこまでも大切に、それをサポートしてゆく「お客さま中心のケア」（client-centered care）。これが私たちの目指す「るうてるケア」です。

洗足について私には忘れられない記憶があります。1986年6月、5月の総会で選出された前田貞一総会議長の就任式を新卒の私が執り行うことになりました。3月に授手を受けたばかりの新任牧師によって議長就任式が行われるというのは前田先生ご自身の発案だったようです。その意図を伺った私は、就任式で「洗足式」を行うこと逆提案させていただきました。礼拝学の専門家に恐れ多いことでしたが、「分かりました」と前田先生は答えられました。以降、私は「総会議長の足を洗った牧師」、「総会議長に足を洗っていただいた牧師」となりました。後にも先にもそのような牧師はいなかったと思います。それは私にとって他者に仕えることの原体験となっています。



理事長・チャプレン
大柴 譲治

2021 年度事業報告・決算と 2022 年度事業計画

常務理事 石倉 智史

2021 年度は、第 3 期中期経営計画の初年として、昨年度に引き続き次期幹部職員の育成を兼ねた会議運営、事業所運営に取り組んで参りました。感染症の拡大に伴う活動の縮小や中止などの弊害も多くありましたが、各事業部が協力し合い組織的に課題解決へ向けた試行錯誤は今後の事業発展に少なからずよい影響を与えたと感じています。

特に他法人が事業の休止や縮小を検討する中にもあっても、必要なサービスを提供するために積極的に対応し、ここ数年にない最高実績をあげた事業や他事業所の休業にもなってサービスが受けられなくなった方への代替サービスの提供など、職員一人ひとりがお客様に向き合うことにチャレンジすることのできた一年でした。

また長年の課題であった、給与規程、昇任昇格に関する規定を全面的に見直し、22 年度から導入することができました。介護機器や ICT 機器の導入などと合わせた職場環境改善に向けた取り組みは、職員のモチベーション向上には欠かせないものとして取り組んで参りました。



2022 年度は第 3 期中期経営計画の 2 年目となります。昨年度の取り組みを評価し、より一層の経営理念の浸透を図っていきます。めざす法人経営のあるべき姿を次期幹部職員とともに全職員で共有し、事業活動の推進にスピード感をもって取り組む姿勢を徹底します。

特に中長期的な人事戦略は最優先課題とし、人事制度の浸透と検証、人材育成と定着などのトータルな人材マネジメントを確実に遂行し、職員処遇全般の向上、働きがいのある職場づくりへの取り組みを継続します。また非常時（自然災害、感染症まん延）のシミュレーションを継続し、事業継続に向けた実践的な対策計画を立案します。

2024 年度に迎える介護保険制度を取り巻く社会情勢の急激な変化は当法人にとって脅威となります。備えるべき対策として事業の継続のための適正な収益性の確保に向け、経営基盤の強化、サービスの質の向上、効率的な事業運営を目指します。

今年は 3 年ぶりにお客様、職員とともに創立記念礼拝を行うことができました



2021年度決算概況 (2022年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	359,517	流動負債	81,618
現金預金	267,079	事業未払金	18,957
事業未収金	90,007	短期設備資金借入金	51,312
未収補助金	120	前受金	207
立替金	1,461	賞与引当金	11,142
前払費用	850	固定負債	1,056,870
		設備資金借入金	1,016,852
		退職給与引当金	40,018
固定資産	1,868,664	負債の部合計	1,138,488
基本財産	1,374,918	純資産の部	
土地	534,814	基本金	815,533
建物	840,104	国庫補助金等特別積立金	270,151
その他の固定資産	493,746	その他の積立金	183,616
建物付属設備・構築物	159,570	次期繰越活動増減差額	△ 179,607
車両運搬・器具備品等	9,370	(うち当期活動増減差額)	27,222
投資有価証券	100,000		
積立資産等	223,674		
その他の固定資産	1,132	純資産合計	1,089,693
資産の部合計	2,228,181	負債及び純資産の部合計	2,228,181

事業活動計算書の要旨

(自)2021年4月1日 (至)2022年3月31日

資金収支計算書の要旨

(単位:千円)

科目		金額	科目		金額
サービス活動増減の部	介護保険収益	478,486	介護保険事業収入	478,486	
	老人福祉事業収益	79,274	老人福祉事業収入	79,274	
	就労支援事業収益	311	就労支援事業収益	311	
	障害福祉サービス事業等収入	72,672	障害福祉サービス等事業収入	72,672	
	医療事業収益	5,162	医療事業収入	5,162	
	その他事業収益	248	その他事業収入	248	
	寄付金収益	5,271	寄付金収入	5,271	
	サービス活動収益計	641,424	受取利息	587	
	人件費	416,811	その他収入	1,443	
	事業費	79,092	事業活動収入計	643,454	
	事務費	55,564	人件費	417,377	
	就労支援事業	863	事業費	79,092	
	利用者負担軽減	41	事務費	55,564	
	減価償却費	64,016	就労支援事業	863	
	国庫補助金積立金取崩額	△ 9,130	利用者負担軽減	41	
サービス活動費用計	607,257	支払利息	8,905		
サービス活動増減差額	34,167	その他支出	86		
サービス活動外収入	2,030	事業活動支出計	561,928		
サービス活動外支出	8,991	事業活動資金収支差額	81,526		
サービス活動外増減差額	△ 6,961	施設整備等収入	127		
経常増減差額	27,206	施設整備等支出	53,490		
特別収益	127	資金収支差額	△ 53,363		
特別費用	110	その他活動収入	0		
特別増減差額	17	その他活動支出	3,118		
当期活動増減差額	27,223	資金収支差額	△ 3,118		
前期繰越活動増減差額	△ 206,830	当期資金収支差額	25,045		